

執筆者紹介

- | | |
|----------|--|
| 國岡なつみ | 本学欧米言語文化専攻前期課程修了（2012年3月） |
| 今田 健蔵 | 東京都立大学附属中学・高等学校非常勤講師
サレジオ工業高等専門学校非常勤講師
本学欧米言語文化専攻前期課程修了（2012年3月） |
| 田口 祐衣 | 本学欧米言語文化専攻博士後期課程1年 |
| バツタ バイクタ | 本学欧米言語文化専攻博士後期課程1年 |
| 于 飛 | 北京師範大学文学院博士後(Postdoctoral)
本学中国言語文化専攻博士後期課程修了（2013年3月） |
| 青木 萌 | 本学中国言語文化専攻博士後期課程2年 |
| 横関 里見 | 本学中国言語文化専攻博士後期課程2年 |
| 横山 昌子 | 本学中国言語文化専攻博士後期課程1年 |

編集後記

今回、『神奈川大学大学院 言語と文化論集』はメモリアルな第20号として刊行されることとなります。世の中を見渡すと、国の経済政策をきっかけに、円安がある程度進んでいるようです。輸出企業などにとっては悪くない状況かもしれませんが、海外の書籍を購入し、海外に出かけることもある外国語学関係の者にとっては、円安はマイナスに作用する面もあるかもしれません。しかし、神奈川大学大学院外国語学研究科の方々は、そのようなことなど問題ともしないのか、英文学、理論言語学、英語教育学、日本語意味論、中国語意味論・構文論という幅広い分野にわたり、多数の興味深い論文をお寄せくださいました。別にくぎりのいい第20号だからというわけではないのですが、このような活力に触れると、今後ますます豊かな研究の発表がなされていく予感がしてきます。

（編集委員 西野清治）

投稿規定

1. 投稿は本大学院に在籍する者か、本学教員に限る。ただし、指導教授の推薦により、博士前期・後期を修了した後の2年間は投稿できるものとする。
2. 論文は原則として、専攻分野に関わる領域を対象としたものとする。
3. 完全原稿を提出すること。
 - ・ 長さは、日本語・中国語の場合はA4版（横33字、縦29行）で20枚（2万字程度）、その他の言語の場合はA4版（横68字、縦25行）で30枚程度とする。
 - ・ 原稿には英文の標題をつけ、ローマ字表記の名前を明示する。
(例)
Verbal Irony and Echoic Use KANAGAWA Tarou
The phonological system of Hum mong ja hoe KANAGAWA Hanako
- ・ 校正は再校まで執筆者が行うこととし、その際、コンピューター処理に関わるもの以外の加筆・削除は認めない。
- ・ 原稿を提出する際は、次の3点を提出すること。
 - ア) 完全原稿を出力したもの 1部
 - イ) 原稿表紙（名前・所属・連絡先・論文標題を記した一覧表）
1部
 - ウ) 外部メモリ（USB等）にア)とイ)を保存したもの（後ほど返却）
4. 原稿提出締め切り：11月30日（厳守）
（執筆者は7月31日までに編集委員に提出論文の概要と予定字数を予告すること。）

(2011.12.14 研究科委員会承認)

神奈川大学大学院
言語と文化論集 第20号

2014年2月 印刷
2014年2月 発行

編集発行 神奈川大学大学院
外国語学研究所
(横浜市神奈川区六角橋 3-27-1)

製 作 共立速記印刷株式会社